

第5回「三井ゴールデン匠賞」 入選者決定 日本の伝統工芸の持続・発展に貢献する20組を選出

三井グループ24社で構成する「三井広報委員会」は、日本の伝統工芸の持続・発展に貢献する業界関係者・団体を表彰する第5回「三井ゴールデン匠賞」の入選者を決定しました。

現在、日本の伝統工芸はインバウンドや世界的な高級ブランドなど、日本だけでなく様々な国・業界から注目を集めています。一方、伝統工芸界に広がる後継者不足などの課題によって、職人などの担い手が減少し、存続の危機に直面している産地もあります。今般の応募では、日本の伝統を継承しながら未来につながるものづくりに真摯に取り組み、さらに発展させている伝統工芸の担い手の方々から、幅広い取り組みが集まりました。伝承技法に新たな独自の技術を加えて魅力を発信する方々や、現代によりなじむ伝統工芸の在り方を模索する方々など、応募内容はこれまで以上に多様化しています。

こうした多数の応募の中から厳正な審査の結果、以下の20組を入選者として選出しました。

【第5回「三井ゴールデン匠賞」 入選者一覧】 都道府県順・敬称略

<東北地区>

・青森県 きむら まさと つがるぬり 木村 正人(津軽塗)

<関東地区>

・東京都 とうきょうみずひき みずひきざいこ 東京水引(水引細工)※団体として応募

・神奈川県 きがさわ まさと がらすきりこ 氣賀澤 雅人(硝子切り)

<中部・北陸地区>

・新潟県 あだち てるひさ たらどまりやまだ まげもの 足立 照久(寺泊山田の曲物)

・新潟県 おだ かずお むらかみきぼりついで 小田 和生(村上木彫堆朱)

・富山県 ひがしなかえわ し かこうせいざんくみあい えっちゅうわ し 東中江和紙加工生産組合(越中和紙)※団体として応募

・富山県 ふたがみ たかおかどうき 株式会社二上(高岡銅器)※団体として応募

・石川県 いけだ てるまさ まきえ らでん 池田 晃将(蒔絵・螺鈿)

・石川県 はりや きぬよ やまなかしつき 針谷 絹代(山中漆器)

・石川県 ひこじゅうまきえ わしま かわりぬり 彦十蒔絵(輪島の変塗)※団体として応募

・石川県 ひさつね としはる か がゆうぜん 久恒 俊治(加賀友禅)

・岐阜県 ぎふわがさ エゴノキプロジェクト実行委員会(岐阜和傘)※団体として応募

・岐阜県 おやいづ ひとし さんちゅうわ し 小柳津 仁(山中和紙)

<近畿地区>

・三重県 いとう きどう ただし すずかづみ 伊藤 亀堂(忠)(鈴鹿墨)

・京都府 いたしき けいこ かみだな 板敷 恵子(神棚)

・大阪府 きのした てん おおさからんま 木下らんま店(大阪欄間)※団体として応募

<中国地区>

・島根県 いわみかぐら 社会福祉法人 いわみ福祉会(伝統芸能「石見神楽」の全装具類)※団体として応募

・島根県 ひろせがすりぎじゆつほぞんかい 広瀬緋技術保存会(広瀬緋)※団体として応募

<九州地区>

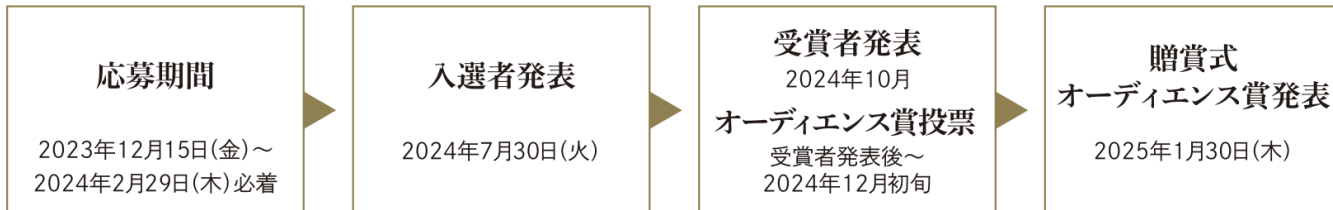
・福岡県 おおた とみたか こいしわらやき 太田 富隆(小石原焼)

・大分県 べっぶたけせいひんきょうどうくみあい べっぶたけざいこ 別府竹製品協同組合(別府竹細工)※団体として応募

今後の予定につきましては、今回選出された入選者の中から、「三井ゴールデン匠賞」の受賞者を2024年10月に発表します。また、受賞者発表とともに、一般の方々に伝統工芸を身近に感じていただく事を目的とし、インターネットに加え、展示の会場で一般の方からの投票を実施。受賞者の中から「オーディエンス賞」を選出します。

【スケジュール】

- ・入選者発表： 2024年7月30日(火)
- ・二次審査： 2024年8月23日(金)
- ・受賞者発表： 2024年10月
- ・オーディエンス賞投票： 受賞者発表後～2025年12月初旬
- ・贈賞式： 2025年1月30日(木)



【第5回「三井ゴールデン匠賞」入選者紹介】

東北地区

青森県

木村 正人

つがるぬり
工芸品種類：津軽塗

応募タイトル

「受け継がれてきた伝統と新たな可能性の探求」

略歴・プロフィール

津軽塗師五代目。1989年石川県立輪島漆芸研修所修了。
全国漆器展日本経済新聞社賞。1999年伝統工芸士認定。
2005年青森県技能奨励賞。
2016年東日本伝統工芸展岩手県知事賞。
2021年日本伝統漆芸展奨励賞。
2023年東京ドームテーブルウェアコンテスト優秀賞。
文化庁長官表彰。
重要無形文化財保持団体津軽塗技術保存会会長。



関東地区

東京都

東京水引 ※団体として応募 代表：中村 江美

みずひきざいく
工芸品種類：水引細工

応募タイトル

「世界と時代を結ぶ：東京水引が切り拓く新たな可能性」

代表略歴・プロフィール

秋田県生まれ。
2017年に美術ディスプレイ経験を活かし
創作水引活動を開始。2024年ハチ公の
水引衣装インスタレーションや
G7広島サミット2023での作品制作など幅広く活動。
2020年に「TOKYO MIZUHIKI|東京水引」を
立ち上げ、新しい手法や素材を取り入れた創作を展開。
最近では「アップサイクル水引」を発表し、
廃棄野菜を用いた染色などにも取り組んでいる。



神奈川県

き が さ わ ま さ と
氣賀澤 雅人

が ら す き り こ
工芸品種類: 硝子切子

応募タイトル

「日本の伝統工芸である硝子切子の技術と新たな可能性を模索し続け、
日本人のモノづくりの心を未来へつなげる取り組み」

略歴・プロフィール

江戸切子・小林英夫氏に師事。
1995年～2005年東京ガラス工芸研究所講師。
1988年・2015年日本伝統工芸展奨励賞。
2005年より日本伝統工芸展の鑑審査委員。
2022年日本伝統工芸展NHK会長賞、
日本伝統工芸展出品の4作品が宮内庁お買い上げとなる。
日本工芸会理事 諸工芸部会部会長。
浄玻璃工芸社がらすびと工房主宰。



中部・北陸地区

新潟県

あ だ ち て る ひ さ
足立 照久

て ら ど ま り や ま だ ま げ も の
工芸品種類: 寺泊山田の曲物

応募タイトル

「古く使えなくなった曲輪(まげわ)の再利用《リメイク曲輪スツール》」

略歴・プロフィール

1974年新潟県旧三島郡寺泊町生まれ。
新潟大学理学部地質鉱物学科卒業。
卒業と同時に家業である篩屋(ふるいや)に就く。
足立茂久商店11代目。
地域に受け継がれる「寺泊山田の曲物」は1982年に
長岡市無形文化財、2022年に新潟県伝統工芸品に指定。
篩、裏漉し、蒸籠などの伝統的な道具を作る傍ら、
曲物の新しい形を模索する。



新潟県

お だ か ず お
小田 和生

む ら か み き ぼ り つ い し ゅ
工芸品種類: 村上木彫堆朱

応募タイトル

「村上で300年以上続く漆工技術の内漆精製用具と糊空木篋の製作と継承」

略歴・プロフィール

1983年4月 日本工芸会 東日本支部 初出品 二十六回入選。
1985年1月 第二回日本伝統漆芸展 初出品 以後入選十七回。
2018年10月 胎内市分谷地A遺跡出土復元品3点胎内市へ寄贈。



富山県

ひ が し な か え わ し か こ う せ い さ ん く み あ い
東中江和紙加工生産組合

み や も と と も の ぶ
代表: 宮本 友信

え っ ち ゅ う わ し
工芸品種類: 越中和紙

応募タイトル

「千年の歳月に耐える、楮100%の悠久紙」

代表略歴・プロフィール

1956年3月24日生・1974年3月富山県立福野高等学校普通科卒業。
1991年8月～ 東中江和紙加工生産組合代表。
1997年 越中和紙「伝統工芸士」認定 通産省。
2001年5月～ 越中和紙伝統工芸士会会長。
2014年5月～2016年5月 富山県伝統工芸士会会長。
2019年11月 富山県功労表彰。
2022年12月 文化庁長官表彰。
2024年5月～ 富山県伝統工芸士会会長。



富山県

株式会社^{ふたがみ}二上^{ふたがみ としひろ}※団体として応募 代表:二上 利博

工芸品種類:高岡銅器^{たかおかどうき}

応募タイトル

「唯一無二の生型鑄造技術～手仕事を究めて高岡銅器の源流を次世代へ」

代表略歴・プロフィール

1897年創業。

富山県高岡市で仏具製造を営みながら、2009年に真鍮の生活用品ブランド「FUTAGAMI」を設立。
伝統工芸「高岡銅器」の中心的技術「生型鑄造法」を磨き、独自の「真鍮鑄肌仕上げ」技術を開発。仏具製造も続けながら、手仕事の技術の研鑽を重ね、次世代に伝統工芸技術を繋ぐ取り組みを行っている。

**石川県**

池田 晃将^{いけだ てるまさ}

工芸品種類:蒔絵・螺鈿^{まきえ らてん}

応募タイトル

「現代における装飾工芸品の制作」

略歴・プロフィール

1987年 千葉県出身。

2016年 金沢美術工芸大学大学院 修士課程 修了。

2019年 金沢卯辰山工芸工房 修了。

現在 金沢市内に工房を構える。

「ポケモン×工芸展 美とわざの大発見」国立工芸館(2023年)、「超絶技巧、未来へ! 明治工芸とそのDNA」三井記念美術館(2023年)他。

**石川県**

針谷 絹代^{はりや きぬよ}

工芸品種類:山中漆器^{やまなかしっき}

応募タイトル

「蒔絵アクセサリーの誕生 家族と共に歩む道」

略歴・プロフィール

1981年 うるしアートはりや設立。

1994年 東京ドームテーブルウェアフェスティバルデザイン部門大賞。

1995年 伝統工芸士認定。

1997年 国際根付ソサエティハワイ大会新人賞。

2000年 財団法人心遠館招待によりロサンゼルスにて蒔絵実演。

2019年 日本伝統工芸士会作品展最高賞。

2020年 全国漆器展奨励賞。

**石川県**

彦十蒔絵^{ひこじゅうまきえ}※団体として応募 代表:若宮 隆志^{わかみや たかし}

工芸品種類:輪島の變塗^{わじま かわりぬり}

応募タイトル

「縄文時代から続く漆と平安時代から続く蒔絵意匠と技術を使った

日本の美意識を未来に繋げる取り組み」

略歴・プロフィール

輪島発祥20人ほどの漆芸職人集団。

日本が誇る数千年の漆芸技術を用いて、伝統的な意匠や文様の継承を考えながら新しい作品を企画し、その都度相応しい職人を組織する形式で制作を行う。主宰の若宮隆志は2014年文化庁文化交流使として欧州、アジア、中東などで漆文化を伝え、日ごろは漆の技術研究開発及び啓蒙活動を行い、漆器の市場開拓、海外発表なども積極的に展開している。個々の漆芸職人の感性を活かし、日本文化の精神性を作品を通して世に残す漆芸集団。



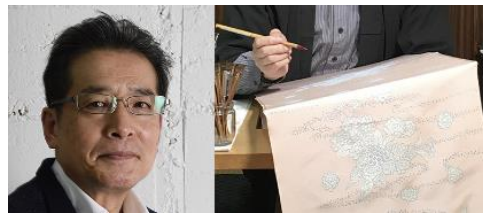
石川県

ひさつね としはる
久恒 俊治

かが ゆうぜん
工芸品種類:加賀友禅

応募タイトル 「草木染め加賀友禅の再興、未来へとつなげる」

略歴・プロフィール 1973年加賀友禅作家・鶴見保次工房に入門し、
1987年独立して『友禅空間 工房久恒』を開設。
2002年第26回全国伝統的工芸品公募展入選。
友禅染め技法を木や金箔・化繊に応用し、着物だけでなく
内装建材・インテリア雑貨・テーブルウェア・
ファッション雑貨などを制作する。



岐阜県

エゴノキプロジェクト実行委員会※団体として応募 代表:長屋 一男 工芸品種類:岐阜和傘

応募タイトル 「全国から職人や関係者が集い、森づくりから取り組む和傘の維持継承」

略歴・プロフィール 和傘部品の材料・エゴノキを収穫する人が
亡くなったことをきっかけに、和傘職人、
森林ボランティア、林業者、専門学校の教員や
学生、和傘販売業者、愛好家などが全国から
岐阜県美濃市の森に集まり、
全国の1年分の和傘生産に必要なエゴノキを
協力して収穫している。
2020年からは苗を育て、森づくりにも取り組んでいる。



岐阜県

おやいづ ひとし
小柳津 仁

さんちゅうわ し
工芸品種類:山中和紙

応募タイトル 「伝統で家族の未来を紡ぐ、和紙のキッズメジャー」

略歴・プロフィール 1986年愛知県生まれ。
京都精華大学卒業。2011年5月、岐阜県飛騨市河合町の
山中和紙職人の故・柏木一枝氏との出会いから、2023年8月、
gfff(ギフトフ)として巻物作家の活動を開始。2024年5月、
飛騨市地域おこし協力隊「山中和紙振興プロジェクト」着任。
飛騨市に移住。生産工程の改善と販路開拓を行い、
地域課題解決に取り組む。



近畿地区

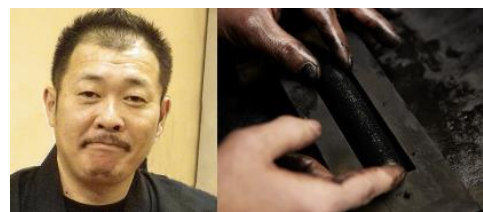
三重県

いとう きどう ただし
伊藤 亀堂(忠)

すずかづみ
工芸品種類:鈴鹿墨

応募タイトル 「1200年以上続く伝統技術の継承と鈴鹿墨の新たな可能性の創出」

略歴・プロフィール 1964年三重県鈴鹿市出身。
1985年から家業の製墨業に従事し、伝統工芸士として
自ら鈴鹿墨の創作活動に日々取り組み後継者育成にも尽力。
2014年卓越した技能者表彰「現代の名工」受賞。
2019年黄綬褒章受章。
卓越した技術・技能を活かし1分で磨れる早おり墨や色墨など
革新的な製品を、現在も生み出し続けている。



京都府

いたしき けいこ
板敷 恵子

かみだな
工芸品種類:神棚

応募タイトル 「女性職人でも十分に出来ます」

略歴・プロフィール 鹿児島県枕崎市育ち。
2001年に単身、親族のいる関西に上京。
様々な業界での勤務を経て2007年に神主の衣装や
神祭具の販売会社に就職。その際神棚に興味を持ち、
取引のあった大西神具店に何度も聞きに行くうちに職人へ
憧れるようになり、大西神具店に頼み込み、2008年に就職。
2014年 京もの認定工芸士（第106号）授賞。



大阪府

きのした てん
木下らんま店※団体として応募 代表:木下 文男

おおさからんま
工芸品種類:大阪欄間

応募タイトル 「住宅の洋風化により消えゆく400年余り続く欄間技術を未来へつなげる取り組み」

代表略歴・プロフィール 1959年 弟子入り。
1969年 独立 現在地にて創業。
1979年 伝統工芸士認定。
2000年 伝統工芸品産業功労者表彰。
2013年 内閣府 瑞宝単光章 受章。
2015年 大阪府伝統工芸士認定(朋美)。
2017年 大阪府「大阪製ブランド」認定。
2019年 摂津市「摂津優品」認定。
2024年 摂津市教育委員会 キャリア教育応援企業等登録認定。



中国地区

島根県

むろさき とみえ
社会福祉法人 いわみ福祉会※団体として応募 代表:室崎 富恵 工芸品種類:伝統芸能「石見神楽」の全装具類
いわかぐら

応募タイトル 「伝統芸能《石見神楽》の全装具類を職人と障害者チームで製作伝承」

代表略歴・プロフィール 島根県浜田市出身。
浜田地区手をつなぐ育成会 会長などを経て、
1973年社会福祉法人「いわみ福祉会」を
立ち上げ、理事長に就任。
現在も島根県知的障害者福祉協会 会長、
島根県総合開発審議会 委員などを歴任する。
障がい者の生活と就労支援、児童から高齢まで
地域の福祉を支えている。2024年「渋沢栄一賞」受賞。



島根県

ひろせがすけじゅつほぞんかい
広瀬絣技術保存会※団体として応募 代表:永田 佳子 工芸品種類:広瀬絣

応募タイトル 「現代に生きる絣の創作、広瀬絣の伝統技法の映像化による伝承・公開、
ウェブサイトによる情報発信と地域との取り組み」

代表略歴・プロフィール 1951年島根県出身。
1974年父・天野圭（島根県指定無形文化財「広瀬絣」保持者）の
もとで広瀬絣に従事。1981年から広瀬絣伝習所講師、
広瀬絣の技術伝承・後継者育成に取り組む。
2005年島根県指定無形文化財「広瀬絣」保持者に
認定される。2010年有志と共に広瀬絣技術保存会を設立。
日本工芸会正会員。



九州地区

福岡県

おおた とみたか
太田 富隆

こいしわらやき
工芸品種類:小石原焼

応募タイトル

「どこか懐かしい。だけど新しい。ここからはじまる小石原焼の新しいカタチ」

略歴・プロフィール

1969年福岡県小石原生まれ。
1990年佐賀県立有田窯業大学卒業。
家業のマルワ窯に従事。国際陶芸展銀賞。
1991年渡米し、リックとマークの元で半年間修行。
1995年渡英し、バーナード・リーチの足跡をたどって研修。
1996年西日本陶芸美術展文部大臣賞。
2005年日本工芸会正会員。
2013年福岡県知事からの依頼により
「藁刷毛壺」を制作し宮内庁へ献上。



大分県

べっぶたけせいひんきょうどうくみあい
別府竹製品協同組合※団体として応募

いわお いちろう
代表:岩尾 一朗

べっぶたけざいく
工芸品種類:別府竹細工

応募タイトル

「別府竹細工の伝統と技術の首都圏における普及・認知向上と

その発信を通じた伝統と革新性への貢献」

略歴・プロフィール

1980年、別府竹細工が伝統的工芸品に
指定された翌年、行政の支援のもと発足。
2009年からは行政の支援を受けず完全独立採算制。
別府から伝統技術を伝え残す為に、
現役の職人を講師として送り続ける。受講生の中からは
20名以上が別府に移住し現地で竹工芸を学ぶ。
その内の9割は、独立採算制に移行してからの受講生。



【第5回「三井ゴールデン匠賞」概要】

「三井ゴールデン匠賞」は日本の伝統工芸の持続・発展に貢献する業界関係者・団体を表彰するものです。

伝統工芸界には、後継者不足など課題がある中、日本の伝統を継承しながら未来につながるものづくりに真摯に取り組
み、さらに発展させている伝統工芸の担い手があります。本賞は、こうした取り組みの担い手に称賛が集まる機会を作り、日本の
伝統を次世代につなぐ取り組みを応援しています。このため、本賞は伝統工芸品の職人はもとより、器具・素材の開発や、経
営・流通に関わる方など、伝統工芸界を支える幅広い個人や団体を応募対象としています。

日本の伝統文化の継承・発展、また国内外への情報発信の重要性が高まる昨今、三井広報委員会は「三井ゴールデン匠
賞」の実施を通じて伝統工芸の担い手を称えらるとともに、伝統工芸の素晴らしさを広く伝える機会の創出に寄与して参ります。

※ 2015年に「三井ゴールデン匠賞」創設。

これまでに4回(2015年度/2017年度/2019年度/2021年度の隔年実施)にわたり、
優れた活動を行う伝統工芸の担い手にスポットライトを当て、その功績を称える活動を行ってきました。

「三井ゴールデン匠賞」公式サイト：<https://mgt.mitsuipr.com/>

【主 催】三井広報委員会

【後 援】一般財団法人 伝統的工芸品産業振興協会

【協 力】和くらし・くらぶ

【賞の種類/賞金】

- ・ 三井ゴールデン匠賞：5名または5団体以内。
審査員による審査で選出。トロフィーおよび賞金50万円を贈与。
- ・ 審査員特別賞：若干名(該当者無しの場合もあり)
審査員による審査で選出。トロフィーおよび賞金20万円を贈与。
- ・ 奨励賞：若干名(該当者無しの場合もあり)
審査員による審査で選出。トロフィーおよび、賞金10万円を贈与。
- ・ 入選：上記の受賞者を含めて20名または20団体以内。
- ・ オーディエンス賞：1名または1団体。
一般の方に伝統工芸を身近に感じていただくことを目的とし、インターネットに加え、展示の会場で一般の方からの投票により、三井ゴールデン匠賞受賞者の中から選出。トロフィーを贈与。



【受賞者発表】 2024年10月

【オーディエンス賞投票】 受賞者発表後～2024年12月初旬

【贈賞式】 2025年1月30日(木)

【審査ポイント】 「技術・技能」、「創造性」、「持続性」。その視点から未来につながる取り組みを評価します。

【審査員】

- ・外館 和子 (工芸評論家 多摩美術大学教授) ※審査員長
- ・小林 祐子 (三井記念美術館 学芸課長)
- ・河井 隆徳 (一般財団法人 伝統的工芸品産業振興協会 常務理事)
- ・戸田 敏夫 (日本伝統工芸士会 会長)
- ・千 宗屋 (武者小路千家家元後嗣)

【三井広報委員会について】

三井グループ企業24社で構成される三井広報委員会は、“人を大切にし、多様な個性と価値を尊重することで社会を豊かにする”という理念のもと、様々な文化活動および広報活動を行う組織です。活動を通じ、国際交流や地域社会の活性化に貢献するとともに、社会の繁栄と福祉に寄与し、三井グループのより一層のイメージ向上を目指しています。



三井広報委員会

〈会員会社一覧〉

三機工業 新日本空調 三井住友建設 サッポロビール 東レ 王子ホールディングス デンカ 三井化学
日本製鋼所 三井金属 東洋エンジニアリング 三井E&S 商船三井 三井物産
三越伊勢丹ホールディングス 三井住友海上 三井住友銀行 三井住友ファイナンス&リース JA三井リース
大樹生命 三井住友信託銀行 三井不動産 三井倉庫ホールディングス エームサービス

〈主な活動〉

- ・「三井ゴールデン匠賞」の主催
- ・「三井ゴールデン・クラブ賞」の提供
- ・「三井ゴールデン・クラブ野球教室」の開催

「人を大切にし、多様な個性と価値を尊重することで
社会を豊かにする」ことを目的とした社会貢献活動



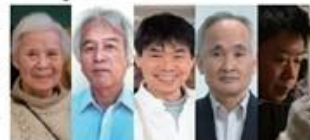
三井ゴールデン・クラブ賞

一般的に注目が集まりやすい攻撃陣や投手陣だけでなく、野球の土台ともいえる守備の大切さを知ってほしい、守備陣にも光を当てたい、という思い



三井ゴールデン匠賞

日本の伝統を継承しながら未来につながるものづくりに真摯に取り組み、さらに発展させている伝統工芸の担い手の活動を応援したいという思い



三井広報委員会公式サイト：<https://www.mitsuipr.com/>

〈報道関係者からのお問い合わせ先〉

「三井ゴールデン匠賞」広報事務局（株式会社テラス・テクノロジー内）
TEL:090-4911-8640 E-mail: mitsuipr@terasutech.co.jp